



# 妙国寺寺報

平成二十一年九月発行 第十四号

「いただきます」



私達はそう言ってご飯を食べます。給食の時間、私が保育園で先生をしていた頃、「なんでいただきますって言うの？」と子どもから聞かれたことがあります。確かに・・・私たちは一体何をいただいているのでしょうか？キリスト教では食べる前に神様に今日の食物を与えてくださったことを感謝してお祈りを捧げます。この「いただきます」という挨拶は諸外国には見られない日本独自の文化のようです。最近では「食育」という言葉が生まれ、子どもたちに食べることの、また、命の大切さを教えなきゃいかんという考えが広まっています。

大阪の、ある小学校で豚を飼育し、最終的にはその豚を食べようという授業が900日間にわたって行われました。当時「命の授業」として話題になり、テレビでも放映されました。最近では映画化されています。この命の授業、月日が経つにつれ子ども達は豚に対して家畜という意識ではなく「Pちゃん」と名前をつけてペットとしての感情を抱き始めます。そして自分たちが卒業する間際になった時に、最終的な結論を出さなくてはいけなくなりました。食肉センターに送るのか、一日でも長生きしてもらおうため下級生に受け継いでもらうのか。「もうペットだから食べられない」「もうPちゃんは家族だから」「Pちゃんが食べられなくて他の動物は食べられるというのはおかしい、

同じ命ということに変わらない」とクラスを二分してこのことを必死に考えます。結局話し合いは先延ばしするのではなく、自分達の代で結論を決めようと「食肉センターに送る」ということでまとまり、最後まで食肉センターに送ることを反対した子ども一人が「命の長さは誰が決めるの？」と言っていたのが印象的でした。

日本人は古来より、森林や海に囲まれ大自然の中で暮らしてきました。この考えは仏教の中にも反映されて「一切衆生悉有仏性」（この世のものはすべて仏の種を宿している）という涅槃経の経文が日本では昔から大きく受け入れられています。仏の種を宿するというのは、成仏すること、ということは私達人間となら変わらない存在であるということです。

「いただきます」とは、供物として神に捧げた動植物を戴く。動植物が持っている命を自分の命のためにいただく。この二つの意味があるようです。私達は動植物が持っている寿命を、いかなれば、

決められた命の長さをこちらの都合に合わせて決めていくんですね、だからこそ貴重な命に感謝する。日蓮聖人もお手紙の中で「人は食によって生あり、食を財とす」とおっしゃっています。食は楽しむものではなく、財なんです。だからこそ、貴重な命をいただきます、ありがたう。と昔から食べる前には必ず言ってきたわけです。

今、日本人が一日に食べ残す量は世界一で、日本人一人につき、一日にご飯二配分の量を捨てているのが現状だそうです。財をポイポイ平気で捨てていっているこの日本の現状。お彼岸は命を供養し向き合う期間です。何気なく目につかない私たちを取り巻く命に目を向けてみましょう。

渡邊 義専

## 日蓮宗妙国寺ホームページ開設

本年、平成二十一年は妙国寺が開設されて壹百年の慶年に当たります。その節目に当山妙国寺に於きまして、新たにホームページを十月一日より開設いたします。

我が宗門、日蓮宗に於いては、来る平成三十三年に日蓮聖人ご降誕八百年の慶年を迎えます。宗門に於いては、これに向けて「立正安国・お題目結縁運動」を展開し、第一期三年目に入りました。私たち妙国寺も、この運動に参画し日蓮聖人がお示しになられた「お題目」の有り難さ、素晴らしさを知っていただく為に布教伝導に精進致している所であります。

この度、ホームページ開設を契機にしまして県内外の檀信徒、並びに地域の人々と交流を深めて、妙国寺をもっと理解していただくことと、気軽にご利用していただくために、ページの内容の充実を計ってまいりたいと思っております。

特に県外の檀信徒並びに有縁の方々には、自分たちのご先祖がいらっしゃるお寺のサイトであります。ご先祖の思いを託してページを開いていただきますよう、宜しくお願いいたします。

住職 渡邊 義俊



ホームページアドレスは・・・  
<http://www.myokokuji.info>  
メールアドレスは・・・  
Gisyun-gisen@myokokuji.info  
になります。また、検索サイトのyahoo や google にて、「熊本日蓮宗 妙国寺」で検索されてもアクセスできます。

## 行事予定

・十月八日（木） 十一時～ 月例鬼子母神祭  
御祈祷と法話があります。

・十一月八日（日） 十一時～ お会式／月例鬼子母神祭

日蓮聖人に報恩感謝の祈りを捧げます。仏壇の日蓮上人像の綿帽子と桜の模造花を来られた方に配布します。法要・御祈祷・本妙寺塔頭知運院住職 山田義晴上人の法話がございます。どうぞお誘い合わせお参りください。